年間授業計画　新様式例

# 高等学校　令和６年度（１２学年用）　教科　　家庭　　科目　家庭総合

教　科：　家庭　　科　目：　家庭総合　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　1 組～　5 組

教科担当者：（１組：櫻庭/菊島）（２組：櫻庭/菊島）（３組：堀口/菊島）（４組：堀口/菊島）（５組：堀口/菊島）

使用教科書：（ 家庭総合　自立・共生・創造（東京書籍）　　）

教科　　家庭　　の目標：

【知識及び技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め，家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて，生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う

科目　家庭総合　　の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに，それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 | 家庭や地域・社会における生活の中から問題を見いだして課題設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。 | 様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，生活文化を継承し，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1学期 | A食生活をつくる<br><br>【知識及び技能】<br>健康な食生活を送るために必要な栄養素・食物アレルギーや食中毒等について科学的な理解を深める。基礎的な調理技術を身につける。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>食生活に関する情報を適切に判断し、自分や家族が送るべき食生活について考えたり実践したりする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>自分や家族の食生活に関心を持ち、様々な人と協働しながらその課題解決にむけて取り組む。 | ・食生活の課題<br>・食事と栄養、食品<br>・食品の選択と安全<br>・生涯を見通した食事計画<br>・調理の基礎<br>・食生活の文化と知恵<br>・これからの食生活 | 【知識・技能】<br>ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴について理解している。食品衛生について、科学的に理解している。目的に応じた調理に必要な技能を身に着けている。<br>【思考・判断・表現】<br>自分及び家族の食生活を健康や環境の視点から評価し、課題を見出すことが出来ている。その課題解決にむけた策の構想・実践を通して、課題解決能力を身につけている。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>様々な人と協働し、食生活に関する課題解決に主体的に取り組んだり振り返ったりしながら、よりよい社会の構築にむけて実践しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 24 |
| | 定期考査・1学期の振り返り | | | ○ | ○ | | 2 |
| 2学期 | B衣生活をつくる<br><br>【知識及び技能】<br>被服の機能や被服材料の特徴について理解する。被服表示を活用し、適切な管理・手入れ方法を身に着ける。基礎的な縫製技術を習得する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>衣生活に関する情報を適切に判断し、自分や家族が送るべき衣生活について考えたり実践したりする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>自分や家族の衣生活に関心を持ち、様々な人と協働しながらその課題解決にむけて取り組む。 | ・被服の役割を考える<br>・被服を入手する<br>・被服を管理する<br>・被服製作（弁当袋）<br>・衣生活の文化と知恵<br>・これからの衣生活 | 【知識・技能】<br>ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能および着想について理解している。衣生活の自立に必要な技能を身につけている。<br>【思考・判断・表現】<br>目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や、環境問題の視点から、自分及び家族の衣生活を評価し、課題を見出すことが出来ている。その課題解決にむけた策の構想・実践を通して、課題解決能力を身に着けている。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>様々な人と協働し、衣生活に関する課題解決に主体的に取り組んだり振り返ったりしながら、よりよい社会の構築にむけて実践しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 28 |
| | 定期考査・２学期の振り返り | | | ○ | ○ | | 2 |
| 3学期 | C経済生活を営む<br>【知識及び技能】<br>様々な契約形態や販売方法・支払方法について正しく理解する。生涯を見通して家計をﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄする力を身につける。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>経済活に関する情報を適切に判断し、自立した責任ある消費者になるための課題について考えたり実践したりする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>自分や家族の経済生活に関心を持ち、様々な人と協働しながらその課題解決にむけて取り組む。 | ・情報の収集、比較と意思決定<br>・購入・支払いのルールと方法<br>・消費者の権利と責任<br>・生涯の経済生活を見通す<br>・家計をﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄする<br>・これからの経済生活 | 【知識・技能】<br>契約の重要性や消費者保護の仕組みついて理解を深めている。生涯を見通した生活における経済の管理や計画について理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>自立した消費者として適切な意思決定・行動ができるように、責任ある消費行動や適切な家計管理という視点から自分及び家族の経済生活を評価し、課題を見出すことができている。その課題解決に向けた策の構想・実践を通して、課題解決能力を身につけている。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>様々な人と協働し、経済生活に関する課題解決に主体的に取り組んだり振り返ったりしながら、よりよい社会の構築にむけて実践しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 20 |
| | 定期考査・一年の振り返り | | | ○ | ○ | | 2 |
| | | | | | | | 合計<br>78 |

| 教科・科目 | 家庭・ファッション造形基礎 | | | 単位数 | ２単位 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 対象学年 | ３学年 |
| 担当者 | Y1 | Y2 | | | |
| | 武井 | 武井 | | | |
| 教科書 | ファッション造形基礎（実教出版） | | | | |
| 補助教材 | なし | | | | |

| 目標 | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|---|---|---|
| 教科の目標 | 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 | 生活産業に関する課題を発見し，職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 職業人として必要な豊かな人間性を育み，よりよい社会の構築を目指して自ら学び，生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
| 科目の目標 | ・被服の構成，被服材料の種類や特徴，被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 | ・被服製作やデザインに関する課題を発見し，ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | ・衣生活の充実を目指して自ら学び，ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |

| | 単元名 | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 思 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １学期 | 衣服の構成 | 知　立体構成衣服と平面構成衣服それぞれの形状の違いを理解する。 | 立体構成衣服と平面構成衣服 | 知　立体構成衣服の製作過程で必要なパターンや，ダーツのデザイン展開，平面構成衣服の特徴を理解できている。 | ○○○ | 4 |
| | | 思　身の回りの衣服を、立体構成衣服と平面構成衣服に分けることができるようになる。 | | 思　自分の身のまわりの服の特徴をみて，立体構成衣服か平面構成衣服かを分けることができる。 | | |
| | | 学　衣服の構成に関心を持つ。 | | 態　人体に合わせて立体的に作られた立体構成衣服と，人が着用することではじめて立体的になる平面構成衣服の特徴の対比に関心を持ち，衣服の構成に関心をよせている。 | | |
| | 和服の製作 | 知　和服の各部の名称を知り、部位ごとの縫い方を理解する。 | ・裁断<br>・脇縫い<br>・おくみ縫い<br>・裾の始末<br>・衿つけ<br>・袖つけ<br>・ハーフパンツ | 知　和服の各部の名称を理解している。部位ごとの縫い方を理解している。 | ○○○ | 26 |
| | | 思　学んだ基礎的技法を用いて、正確な裁断、部位ごとに適した縫い方をする。 | | 思　学んだ基礎的技法を用いて、正確に裁断したり部位ごとの適した縫い方ができる。 | | |
| | | 学　技法の学びや実践をとおして、作品制作に積極的に取り組む。 | | 態　技法の学びや実践をとおして、作品制作に積極的に取り組んでいる。 | | |
| ２学期 | 和服の製作 | 知　和服の各部の名称を知り、部位ごとの縫い方を理解する。 | ・裁断<br>・脇縫い<br>・おくみ縫い<br>・裾の始末<br>・衿つけ | 知　和服の各部の名称を理解している。部位ごとの縫い方を理解している。 | ○○○ | 32 |
| | | 思　学んだ基礎的技法を用いて、正確な裁断、部位ごとに適した縫い方をする。 | | 思　学んだ基礎的技法を用いて、正確に裁断したり部位ごとの適した縫い方ができる。 | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学　技法の学びや実践をとおして、作品制作に積極的に取り組む。 | ・袖つけ<br>・ハーフパンツ | 態　技法の学びや実践をとおして、作品制作に積極的に取り組んでいる。 | | |
| ３学期 | 和服の着装と管理 | 知　着付け手順や和服のたたみ方を理解する。 | 和服の着装と管理 | 知　着付け手順や和服のたたみ方を理解している。 | ○○○ | 2 |
| | | 思　着装のマナーにあわせて、TPOに応じた和服の着装をする。 | | 思　着装のマナーにあわせた、TPOに応じた和服の着装を考えられている。 | | |
| | | 学　和服の着装・管理に興味を持つ。 | | 態　和服を日常着として取り入れることに興味がある。 | | |
| | 衣服の素材 | 知　繊維・糸・布と，素材の違いによるそれぞれの特徴，それらの加工を理解する。 | ・衣服素材の種類<br>・環境と衣服素材 | 知　繊維・糸・布と，素材の違いによるそれぞれの特徴，それらの加工を理解している。 | ○○○ | 14 |
| | | 思　素材の種類について学んだ知識を生かして、環境や安全性と関連付ける。 | | 思　素材の種類について学んだ知識を生かして、環境や安全性と関連付けられる。 | | |
| | | 学　衣服素材に関する環境や安全性を踏まえて、リサイクルなどに興味を持つ。 | | 態　衣服素材に関する環境や安全性を踏まえて、リサイクルなどに意欲的に取り組もうとしている。 | | |

指導目標　知=知識及び技能　思=思考力、判断力、表現力等　学=学びに向かう力、人間性等

評価規準　知=知識・技能　思=思考・判断・表現　態=主体的に学習に取り組む態度

| 教科・科目 | 家庭・フードデザイン | | | 単位数 | ２単位 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 対象学年 | 3学年 |
| 担当者 | Ｙ２ | Ｙ３ | | | |
| | 菊島　智子 | 菊島　智子 | | | |
| 教科書 | フードデザイン（実教出版） | | | | |
| 補助教材 | オールガイド食品成分表2024（実教出版） | | | | |

| 目標 | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|---|---|---|
| 教科の目標 | 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 | 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 |
| 科目の目標 | 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。 | 多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。 | 人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。 |

| | 単元名 | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 思 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １学期 | 調理の基本 | 知　調理操作や調理における衛生の知識を身に付けている。<br>思　安全で効率的、かつ美味しく調理する方法について考えることができる。<br>学　調理に関心を持ち、意欲的に学ぼうと主体的に取り組んでいる。 | 調理の目的<br>調理とおいしさ<br>さまざまな調理操作<br>食品の衛生と安全 | 知　調理に必要な調理技術の基礎的な知識と技術を身につけることができる。<br>思　調理操作が料理のできあがりに与える影響について思考を深めている。<br>態　調理技術の向上に関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられる。 | ○○○ | 8 |
| | フードデザイン実習① | 知　題材に合った調理の知識を身に付け、効率よく安全に調理ができる。<br>思　調理工程をふまえ、課題意識をもって調理の進め方を考えている。<br>学　習得した知識や技術を家庭や地域で活用しようとしている。 | 調理実習 | 知　適切な調理技術への知識と技術を身に付けることができる。<br>思　調理工程を把握して課題意識をもって計画的に調理を進められる。<br>態　調理の技術を向上させる意欲と、今後の食生活に活かそうとしている。 | ○○○ | 8 |
| | 食事の意義と食をとりまく現状 | 知 食事がもたらす意義や食生活の現状と問題点が理解できる。<br>思　現代の食生活の現状について、情報を収集・整理し、考えをまとめられる。<br>学　自分自身や日本の食生活の現状に関心を持ち、改善する意欲が感じられる。 | 食事の意義<br>食をとりまく現状 | 知　食事の必要性と食生活の問題点について知識が理解できている。<br>思　心身ともに健康で豊かな食生活を営むための思考を深めることができる。<br>態　よりよい食生活のための改善策について構想し、実現使用している。 | ○○○ | 6 |
| | フードデザイン実習② | 知　題材に合った調理の知識を身に付け、効率よく安全に調理ができる。<br>思　調理工程をふまえ、課題意識をもって調理の進め方を考えている。<br>学　習得した知識や技術を家庭や地域で活用しようとしている。 | 調理実習 | 知　適切な調理技術への知識と技術を身に付けることができる。<br>思　調理工程を把握して課題意識をもって計画的に調理を進められる。<br>態　調理の技術を向上させる意欲と、今後の食生活に活かそうとしている。 | ○○○ | 8 |
| | 期末考査 | | | | ○○ | 1 |
| ２学期 | | 知　栄養素とそのはたらき、食品の特徴についての知識を身に付けている。 | | 知　五大栄養素の知識を習得し、消化・吸収について理解している。 | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 栄養と食品 | 思　からだの中で栄養素がどのようなはたらきをするか複合的に思考できる。<br>学　習得した知識を自らの食生活に活用しようとしている。 | 栄養素のはたらき<br>食品の特徴 | 思　からだの中でどのように栄養素がはたらくかを考えることができる。<br>態　健康的な体づくりのために必要な栄養素を選ぶなど、生活に活用している。 | ○○○ | 8 |
| | フードデザイン実習③ | 知　題材に合った調理の知識を身に付け、効率よく安全に調理ができる。<br>思　調理工程をふまえ、課題意識をもって調理の進め方を考えている。<br>学　習得した知識や技術を家庭や地域で活用しようとしている。 | 調理実習 | 知　適切な調理技術への知識と技術を身に付けることができる。<br>思　調理工程を把握して課題意識をもって計画的に調理を進められる。<br>態　調理の技術を向上させる意欲と、今後の食生活に活かそうとしている。 | ○○○ | 8 |
| | 料理様式とテーブルコーディネート | 知　様式別の食卓構成や食卓作法、適切なマナーを身につけることができる。<br>思　食器・盛りつけ・装飾・照明等、目的に応じた適切な選択ができる。<br>学　習得した知識を自らの食生活に活用しようとしている。 | 料理様式と献立<br>テーブルコーディネートの基本 | 知　食卓構成や食卓作法、テーマに合わせたコーディネートを理解している。<br>思　具体的な食事テーマを設定し、適切な食卓構成ができる。<br>態　食事のテーマにふさわしい食卓構成への意欲・関心が感じられる。 | ○○○ | 10 |
| | フードデザイン実習④ | 知　題材に合った調理の知識を身に付け、効率よく安全に調理ができる。<br>思　調理工程をふまえ、課題意識をもって調理の進め方を考えている。<br>学　習得した知識や技術を家庭や地域で活用しようとしている。 | 調理実習 | 知　適切な調理技術への知識と技術を身に付けることができる。<br>思　調理工程を把握して課題意識をもって計画的に調理を進められる。<br>態　調理の技術を向上させる意欲と、今後の食生活に活かそうとしている。 | ○○○ | 8 |
| | 期末考査 | | | | ○○ | 1 |
| ３学期 | 献立作成 | 知　栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立知識を身に付ける。<br>思　テーマに合わせて具体的に設定し、目的に応じた献立について考えられる。<br>学　習得した知識や技術を家庭や地域で活用しようとしている。 | 献立作成の基本と演習 | 知　テーマに合わせた食事の献立を作成するための知識が身に付いている。<br>思　作成した献立に適した食品を選ぶことができる。<br>態　日常の食卓から今後の食生活へ意欲的に活用しようとしている。 | ○○○ | 12 |
| | | | | | | |

指導目標　知=知識及び技能　思=思考力、判断力、表現力等　学=学びに向かう力、人間性等

評価規準　知=知識・技能　思=思考・判断・表現　態=主体的に学習に取り組む態度

| 教科・科目 | 家庭・家庭総合 | | | 単位数 | ２単位 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 対象学年 | ３学年 |
| 担当者 | １組 | ２組 | ３組 | ４組 | ５組 |
| | 堀口／武井 | 堀口／櫻庭 | 堀口／武井 | 堀口／櫻庭 | 堀口／武井 |
| 教科書 | 家庭総合　自立・共生・創造（東京書籍） | | | | |
| 補助教材 | なし | | | | |

| 目標 | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|---|---|---|
| 教科の目標 | 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 | 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 |
| 科目の目標 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 | 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 |

| | 単元名 | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 思 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １学期 | 住生活をつくる | 知　生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。<br>思　生涯を見通した住生活について考える。<br>学　将来に向けて自立するための主体的な態度を養う。 | 住生活の変遷と住居の機能 | 知　ライフステージの特徴や課題、住居と人との関わりへの理解を深めている。<br>思　生涯を見通した住居計画について課題を設定し、論理的に表現できる。<br>態　課題の解決に主体的に取り組み、生活向上のための実践をしようとしてい | ○○○ | 4 |
| | 住生活をつくる | 知　住まいの環境性能と快適で健康、安全な住居の条件を理解する。<br>思　学習内容を自らの住生活に活かす工夫を考える。<br>学　将来の生活設計もふまえた住デザインする。 | 安全で快適な住生活の計画 | 知　安全や環境に配慮した住居の機能を理解している。<br>思　安全で快適な住生活への課題を設定し、それを解決しようとしている。<br>態　課題の解決に主体的に取り組み、生活向上のための実践をしようとしてい | ○○○ | 10 |
| | 住生活をつくる | 知　世界や日本のさまざまな住文化について理解する。<br>思　住文化について、気候や風土の違い、時代の変化で考える。<br>学　変化する環境に対応する態度を養う。 | 住生活の文化と知恵 | 知　日本と世界の住文化、住まいと人との関わりについて理解を深めている。<br>思　考察を根拠に基づいて論理的に表現して課題を解決する力を身に付けてい<br>態　課題の解決に主体的に取り組み、生活向上のための実践をしようとしてい | ○○○ | 10 |
| | 住生活をつくる | 知　持続可能な住居や、地域コミュニティづくりについて理解する。<br>思　自分らしい生活が実現できるよう、住居設計ができるようになる。<br>学　環境に配慮し、持続可能な社会を構築に向けた実践ができる。 | これからの住生活<br>住生活をデザインする | 知　住まいと人のかかわり、持続可能な住居の計画について理解している。<br>思　現実的な自分らしい生活実現に向けて住生活をデザインしようとしている。<br>態　課題の解決に主体的に取り組み、生活向上のための実践をしようとしてい | ○○○ | 6 |
| | 期末考査 | | | | ○○ | 1 |
| ２学期 | | 知　性と生殖に関する健康について理解する。 | | 知　性的自立と親の役割と保育について理解を深めている。 | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 子どもと共に育つ | 思　社会の一員として次世代を育む責任について考えることができる。 | 命を育む | 思　次世代を育む責任への課題を設定し、解決に向けた思考ができる。 | ○○○ | 6 |
| | | 学　命に対する責任や自らが適切に関わる態度を養う。 | | 態　課題の解決に主体的に取り組み、よりよい社会の構築に向かおうとしてい | | |
| | 子どもと共に育つ | 知　子どもが生まれつき持つ能力や心身の発達について理解する。 | 子どもの育つ力を知る | 知　乳幼児期の心身の発達と生活について理解を深めている。 | ○○○ | 10 |
| | | 思　子どもの発達に応じて適切に関わる方法を考える。 | | 思　子どもの発達を促すための方法や関わり方を主体的に考えている。 | | |
| | | 学　子どもが持つ能力や発達段階に応じて対応することができる。 | | 態　課題の解決に主体的に取り組み、よりよい社会の構築に向かおうとしてい | | |
| | 子どもと共に育つ | 知　子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 | 子どもと関わる | 知　親の役割と保育について理解を深めている。 | ○○○ | 10 |
| | | 思　子どもが健やかに育つための適切な環境づくりについて考える。 | | 思　生活環境を整えるための課題を解決する方法を考え、解決しようとしてい | | |
| | | 学　子どもがよりよく生活できる環境を整える工夫ができる。 | | 態　課題の解決に主体的に取り組み、よりよい社会の構築に向かおうとしてい | | |
| | 子どもと共に育つ | 知　現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 | これからの保育環境 | 知　子育て支援や子どもの福祉について理解を深めている。 | ○○○ | 4 |
| | | 思　社会全体で子育てを支援していくための方法を考える。 | | 思　子どもの健やかな発達を支える仕組みを、課題をもって考えようとしてい | | |
| | | 学　子どもが健やかに育つ社会の実現について考えて実践しようとする。 | | 態　課題の解決に主体的に取り組み、よりよい社会の構築に向かおうとしてい | | |
| | 期末考査 | | | | ○○ | 1 |
| ３学期 | 超高齢社会を共に生きる | 知　加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 | 高齢期の心身の特徴 | 知　高齢期の心身の特徴について理解を深めている。 | ○○○ | 8 |
| | | 思　高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 | | 思　高齢者の自立支援の仕組みへの課題を設定し、解決策を構想している。 | | |
| | | 学　高齢者が生きがいをもって生活するための支援を考え実践しようとする。 | | 態　課題の解決に主体的に取り組み、よりよい社会の構築に向かおうとしてい | | |
| | 超高齢社会を共に生きる | 知　これからの超高齢社会の課題を理解する。 | 高齢者の自立を支える<br>これからの超高齢社会 | 知　高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深めている。 | ○○○ | 7 |
| | | 思　自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにする方法を考える。 | | 思　高齢者の適切な支援の仕方や関わり方について考え、解決策を模索してい | | |
| | | 学　地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。 | | 態　課題の解決に主体的に取り組み、よりよい社会の構築に向かおうとしてい | | |
| | 期末考査 | | | | ○○ | 1 |

指導目標　知=知識及び技能　思=思考力、判断力、表現力等　学=学びに向かう力、人間性等

評価規準　知=知識・技能　思=思考・判断・表現　態=主体的に学習に取り組む態度